



↑悪条件を感じさせない安定した操法を披露



↑川添町長に準優勝の報告

21日、大会を終えて帰路に就いた選手らは鹿児島空港で他市町の消防団関係者に横断幕と温かい拍手で出迎えられました。11月1日、城川内分団の選手らは全国大会準優勝の報告のため、川添健町長を表敬訪問しました。



↑補助員をはじめ、団員全員で見守る

城川内分団の競技は16番目で、天候が崩れ出した午後1時過ぎに操法を開始しました。応援席で町関係者が固唾を吞んで見守る中、選手たちは大雨にも屈せず、機敏で確実な操法を披露。堂々の準優勝を勝ち取りました。指揮者の宮内也寸志さんと1番員の小牛尾勇介さんは優秀選手賞に選ばれ、本町の消防の歴史に新たな輝かしい1ページを刻んだ大会となりました。

諏訪義則消防団長は「選手が頑張ってくれた結果。準優勝は県にとっても価値のあるもの」と報告し、川添町長は「大きな栄誉を成し遂げたことは町民の誇り。本町の一流の操法技術の伝統を築いてほしい」と称賛しました。



城川内分団城川内班の選手を紹介します

分団長 竹山 隆二

県の代表として、団員全員で挑んだ初の全国舞台で城川内の操法をやりきってくれたことを嬉しく思います。町民の皆さんにも夢と感動と楽しみを少しは与えられたかなと思います。応援ありがとうございました。



1番員 小牛尾勇介

初めての舞台で極限の緊張感の中、要員全員がいつも通りの操法ができて、結果を残せたことを嬉しく思います。皆さんのおかげです。ありがとうございました。



指揮者 宮内也寸志

経験したことのない大きな会場、多くの観客、緊張感の中、要員全員が力を出し切れたことを誇りに思います。長島町の操法が全国に通用することを証明でき、嬉しく思います。



2番員 増田 翔太

「楽しんでこい」、「やり切ってこい」という激励の言葉が力になりました。今回、全国大会という憧れの舞台でこのような成績を収めることができたのは支えていただいた皆さんのおかげです。



3番員 飯尾 翔吾

全国大会という場で「いつも通り」の操法ができました。皆さんの応援があったからだと思います。本当にありがとうございました。



晴れ舞台上で魅せた長島の操法

大会結果（小型ポンプの部・出場 25 消防団）

	都道府県	消防団	総合得点	タイム
優勝	滋賀県	日野町消防団	91.0	40.72
準優勝	鹿児島県	長島町消防団	89.5	42.34
準優勝	兵庫県	福崎町消防団	89.0	41.09
準優勝	岐阜県	下呂市消防団	88.5	41.73

速さ、正確性、規律の正しさを競います。今大会は日本海側で初めての開催で、各県予選を勝ち抜いた消防団選手・応援団など約1万人が詰め掛けました。本町からは城川内分団の選手とその家族、関係者ら約50人が大会に参加し、選手を応援しました。大会前日の18日には、出場全選手が勢揃いした激励交流会が行われ、歌手の水前寺清子さんから著名人が参加し、選手へエールを送りました。大会当日、午前9時過ぎに開会式が行われ、鈴木淳司総務副大臣が「消防団ここにありという実力を見せてほしい」とあいさつし、大会の幕を開けました。



↑張り詰めた緊張感が漂う操法開始前

城川内分団城川内班が全国消防操法大会に初出場し「小型ポンプの部」で準優勝に輝きました。10月19日に富山県富山市の広域消防防災センターで第26回全国消防操法大会が開催されました。鹿児島県代表で本町から全国大会初出場の城川内分団城川内班が「小型ポンプの部」で見事、準優勝を収めました。全国消防操法大会は総務省消防庁および日本消防協会主催で2年に1回開催され、各都道府県予選を勝ち抜いた48消防団がポンプ車の部、小型ポンプの部の2部門に分かれて、



↑開会式での堂々とした入場行進